

道心坂才才ヤマザクラ並木

保全再生活動 十周年記念誌

ノジコ(野路子)の会

発刊にあたって

ノジコ（野路子）の会は、オオヤマザクラについて月岡集落の五十嵐喜一氏から「道心坂に花の色のよい桜があるが、誰かが手入れをしてくれる人はいないだろうか」との相談を受け、大浦地区並びに月岡集落全地権者の快い承諾を得て、平成十三年十二月から事前作業として支障木の伐採、そして平成十五年十月から植樹などに着手してきました。

植樹などに用いられた資金は、にいがた緑の百年物語委員会並びに（財）内田エネルギー技術財団からの助成金を頂き、また、団体、市民からの寄付金を頂きました。植樹には多数の市民ボランティアから協力を頂き実施してきました。

この間植樹に携わった方には十周年を記念しての感想文を依頼したところ、ようやくこのたび記念誌を発刊することになりました。

発刊が遅れたことを心からお詫び申し上げます。

今後の引き続きご協力の程をお願い申し上げます、発刊の言葉といたします。

ノジコの会 会長 関根依智朗



【ノジコの会と道心坂の覚書として】

道心坂オオヤマザクラ並木

ノジコ（野道子）の会がオオヤマザクラ並木の保全再生に着手したのは、月岡集落の五十嵐喜一氏からの相談があった、二〇〇一年（平成十三年）に始まった。

オオヤマザクラ並木の生みの親は三条市生まれの川俣芳衛氏である。川俣氏は、六日町温泉に泊まったときに咲いていたこの花のあまりの美しさにその虜になって、この桜を三条に咲かせてみようと思ったという。

この並木は、川俣氏が私財を投じて周囲四キロメートルの林道を開設し、苗木千本を植栽したことに始まる。ノジコの会の保全再生活動に際して、地権者は月岡集落で三十五名、大浦地区では十四名であり、趣旨を理解していただいた皆さんから快く承諾してもらった。

植えられた桜は雪害などによりその多くが枯死しているが、この並木の保全再生のため、苗木の補植、支障木の伐採、下草刈り、ツル切り等を、月一回第二日曜日の午前中実施している。ボランティアであるため、作業は、会員の都合の付くとき、付けられるときに参加してもらっている。作業は真剣だが、一服休憩時は和気藹々で楽しい。

ノジコの会の補植は間隔を狭めて植えているが、川俣氏の植えた木と合わせて、総本数千三百十四本になっている。

この補植の活動資金は、「にいがた緑の百年物語委員会」、「財）内田エネルギー科学技術財団」や、団体、個人の補助金、寄付金によって賄った。

また、苗木の植栽は多数の市民のボランティアによる協力の賜物である。



関根依智朗

皆で守ろう貴重な動植物の宝庫

道心坂のオオヤマザクラはその名のとおりに「葉」が大きいところから名付けられたもので、別名「エゾベニヤマザクラ」、「ベニヤマザクラ」と呼ばれている。別名のとおりこの樹種は、北海道、東北地方に多く自生する樹木で、下田の奥地に稀に見ることができる。

花は小ぶりだが、紅紫色で葉が出る前に花が咲くので満開時は圧巻である。ソメイヨシノザクラより開花が一週間程度遅れて咲く。道心坂周辺にはカタクリ群生地が多数見られる。野鳥はノジコのほか、ルリチョウ、メジロ、ホオジロなどが生息する。動物ではタヌキ、キツネも見られる。国蝶のギフチョウも見られるが、全国から収集家が盗採するのめつきり数が少なくなった。

道心坂のオオヤマザクラ並木は全国三か所あるうちの一か所である。存在意義のある貴重な並木である。あと五年も経つと四キロメートルの桜のトンネルが見られるのではなからうか。

ノジコの会は、荒廃の一途をたどっていた道心坂のオオヤマザクラ並木整備のほか、並木周辺のカタクリ群生地の保全、また市内公園の植樹、医療機関の生垣造成、民有林の間伐、市内の巨樹巨木の調査（註）、市民向けの観桜会や野鳥観察会の実施など、幅広い地域活動が認められ、新潟県知事から二〇〇六年（平成十八年）八月二十八日、第十一回新潟県環境賞を、また、二〇一二年（平成二十四年）六月二十九日、東京都内において環境大臣から「地域環境保全功労者表彰」を受賞した。

【註】 平成十九年に発行した「三条市における巨樹・巨木の調査」写真集を希望者に頒布します。

「道心坂」の由来

地名には普通由来があるものだが、「道心坂」はその理由が解らない。想像するに、月岡集落側の林道の登り口に、マサキの生垣があり、そこから一寸登ると平坦な土地がある。ここが伝えられている尼寺のあったところではないかと思われる。尼寺の近くに湧水の池が存在した。その池も田川隧道の掘削によって涸れてしまったという。下田郷へ通った道跡らしきものが見られるが、下田郷の人たちは五十嵐川が増水したときには帰れず、この尼寺に泊めてもらったという。これらのことから「道心坂」の名前は、この尼さんに何

らかの関連があるのではないかと思われる。

余談であるが、川俣邸の崖下に、見附市今町の日本刀酒造の酒造りの跡地がある。かつて、五十嵐川の清流水が満々とたたえている頃、酒蔵として利用したところがあつて、今は人が通れないくらいに砂利で埋まっている。

またこの付近は、大昔は海であつて、道心坂を掘削して道を付けた際に、貝の化石が出土している。また縄文時代の頃から人が住んでいたらしく、いからしの里付近では縄文土器や石器が発掘で出土している。

【編補】「道心坂」に関しての史料は二つ存在している。一つは、本成寺村金子新田に生まれ柳田國男と親交のあつた外山曆郎の

「越後三条南郷談」（大正十五年、郷土研究社発行）の中の「化物」という項の中の「道心坂の怪」という掌編。もう一つは、越後新発田藩領今町（現見附市）の役人小泉其明の息子で、幕末の地理歴史学者であつた小泉蒼軒の日記「小泉蒼軒日録」である。また尼僧と地名に関しては、三条地名研究会の杉野真司氏の考察があるので、少し長くなるが記録として併せて紹介しておきたい。

「道心坂の怪」

「本成寺村大字月岡の山から下田の郷へ下る崖道。有名な道心清水の湧いているところ。もとは樹深い坂道だつたという。樵夫が旅の尼僧を見て殺した。その亡念があらわれるという。殊に雨のふる夜だ」と。

（注）ここではつきりしているのは「道心清水」という有名な清水があつたこと。また、旅の尼僧と書かれているが、旅の途中ここを通つた尼僧と解釈するのか、「旅の」という言葉が今でも使う「地元でない、よそから来た」という意味を表すものか不明であるが、普通の解釈の流れからするとこの伝説では、よそ者の尼僧が樵夫に殺された、その清水の湧いている場所が有名な「道心清水」ということである。

「小泉蒼軒 天保十三年（一八四二年）、蒼軒四十六歳 七月十九日」

「(前略) あくる十九日、田上を立て西大崎にて五十嵐川をわたり曲渕に着、(中略) 未の剋過ぎる頃立出つ、細道伝へに大面駅より賀茂町に出る往還の道に出、月岡村を右にし、諏方新田を左りミて、又細道を行々て五十嵐川の南へを山もとに至る、是れよりよちのぼる山道は道心坂と唱ひ、此あたりの道心者のひらきたる近道なりといへり、峠の上へのほりつめてより、下田の郷内二三里かほと一目してけしきよし、峠を打越平地に近きあたりに右の方山へのほる道あり、月岡方へ出る古道なりといへり、又其側にかの道心者の墓あり、近道をひらきておほくの人の便より事になりしをよるこひ、此塚をたて、後世にその名を伝へしよしに聞ゆ、戒名の傍に享保の年をしるせるは其人の死せるとしヨ(※「與」に傍の「欠」) 此塚をたてしとしか委しくハしれず、(後略)」

とあり、同書の欄外に、この塚に刻されていたと思われる「白翁常閑沙弥 享保九辰年」の記載がある。

(注) 文中の「道心者」とは広辞苑によれば「仏法に帰依した人」、「沙弥(しゃみ)」とは「出家して未だ正式の僧になつていない男子」とある。したがって、「白翁常閑」という名の僧(道心者)が、この峠を近道として開削し、多くの人から喜ばれた、とあることから、その僧を表す名が今の地名となつて伝えられたものではないかと考えられる。

なお、尼僧と地名の関係について、平成二十年四月五日付けの越後ジャーナル紙に掲載の「三条の地名を考える」で、『(前略)「あまか」は、ア・マガで、「川筋にある曲がったところ(池田末則説)」の地名と解釈される。(略)アマガリをアマ・ガリと分解した場合に思い浮かぶのは尼(あま)地名である。』そして先の「道心坂の怪」の文章を引用した上で、『「小泉蒼軒日録」には、道心坂は道心者がひらいた近道で墓も存在すると記載され、一見尼地名とは無縁であるが、道心坂以前に伝説の素地となる尼地名があつたのではなからうか』と、杉野氏は考察している。

前記二つの史料の存在を、三条地名研究会の杉野真司氏からご教示いただいた。これらのことを併せて紹介するとともに、快くこれらの史料の提供をしてくださった同氏に厚く御礼を申し上げたい。

(宗村記)

【寄稿文】

オオヤマザクラの保全再生活動十周年おめでとうございます

阿部正司

私がお手伝いさせていただいたのは二回だけでしかないです。しかし私も、ほぼ毎週、加茂の実家の山の管理に没頭しつつ十四年が過ぎ、「木を切ることは簡単、育てるのは一生」、そんな思いとともに格闘しております。

ノジコの会の皆様と植えた苗木を、先日六年ぶりに見て来ました。枯れていた木は数本しかないこと、また皆様の苦勞もわかりました。これからも大切に育ててください。私もできることはお手伝いさせていただきます。ご連絡ください。

桜並木を見に来る人が増えるように

磯田隆

私がノジコの会へ入会したのは、二〇〇九年二月からでしたので、まだ三年半しかたっていない新人で二十番目でした。今年は十五番目の名簿となりました。現在の会員は佐藤光雄さんが二十八番と、会員が増加しているのは、会の運営と会長さんの努力で順調に発展しているのではないのでしょうか。

道心坂の桜並木を初めて整備した人は大変だったと思います。まず道路の両側に排水用の側溝が造られているのにはビックリでした。現在は泥と木の葉で埋まっていますが、整備したときは見事だったと思います。歴史が判れば今のうちに整理して、当時の写真等もあれば残して置いてはと思います。（過去が判れば会員の励みにもなると思います）

会長と地元の皆さん（川俣さんを交えて）の判る範囲で年表にしてはどうでしょうか。当時の経費は、今のお金にすると大変な金額だ

つたと推察されます。

私が入会したときは、まだ支障木が多く、桜が成長しにくい状態の様でしたが、皆さんの協力のおかげで最近では草刈りに行きますと、ハイキング、バイク等人々が道心坂の桜並木を見直すように入山する人が多くなっている感じがします。道心坂の由来と山の名称・標高が判ると有り難いです。三条市民ではありませんが、なるべく参加して整備に協力していきたいと思っています。

日当たりのよいところ

植木憲一

日当たりのよいところはいろいろな花が咲きます。田川には上流に向かって林道が並んで走っています。そのため、開けた日当たりのよい環境をつくっています。林道の右側はトリムの森の山裾です。しみ出た水が法面を湿られています。

この環境が大崎山では見られない花を咲かせます。エチゴリソウ（五月）とコシジシモツケソウ（六月）です。エチゴリソウは他の草にかくれてひっそりと咲き、丈の高いコシジシモツケソウは見事な小群落をつくります。初夏、カジカガエルの涼やかな声を聞くころは、トリムの森でいちばんの散策ポイントかもしれません。

また、林道基点近くの清水が湧くところにはアズマシロガネソウ（四月）が、これもひっそりと上品な姿で咲きます。これも大崎山では見られません。

トリムの森の尾根筋に、高圧電線の保守管理のための道がついています。日が当たるのでカタクリなどいろいろな花が咲きます。

私は、里山の生物多様性は日当たりをよくすることによって広がっていくのだと思いつつながら山を歩いています。



緑にあこがれていた私

川瀬弓子

月岡道心坂での活動十周年おめでとうございます。

何か別れ難い気分のワークの仲間が再結成した会でしたが、いつの間にか十年経ってしまいました。

木のこと山のことなら何でも知っている関根会長さんをはじめ、語りだしたら尽きない凝り性の面々です。

漠然と緑にあこがれていた私にとって、大変貴重な体験をさせていただきました。

個人的には平成十五年秋、法人かわせみ棟立ち上げの際、垣根の植栽をまかっていたとき大変助かりました。かわせみご利用会員さん一人一人の記念樹も植えました。いまだにご利用されている方は覚えていらっしゃって「私の木はどうなったかしら」と心を寄せています。

昨年秋、八年ぶりに枝詰めをしましたので、今年の春の芽吹きが楽しみです。

三・一一以来ますます居住空間の整備が衣食住共々に最優先課題になっています。もう安易に、海の方こうに衣食住を求めてはならない、居住空間内で完結できる持続可能な環境整備が市民レベルで必要とされるでしょう。

今自分に何ができるか、「ノジコの会」の一員として実践していきたいと思えます。



道心坂と父

川俣節子

川俣芳衛の娘で節子と申します。道心坂のオオヤマザクラの整備に携わっておられる皆様に感謝を申し上げます。

父から聞くところによりますと、約五十年前、六日町の温泉宿に泊まったところ、濃紅色の桜が花盛りで心をうばわれ、この桜を道心坂に：と、地元地権者の協力によって林道四キロメートルの開設にオオヤマザクラの苗木千本を植樹。苗木は順調に育ちましたが、父は年齢とともに手入れが行き届かず、雑木やツルに負け、枯れ木が出、誰かがなんとか守ってくれないかと困っていたところ、関根氏と出会って、「ノジコの会」で管理を引き受けて下さり、心から感謝のお礼を申し上げます。

父に、国から「地域環境保全功労者表彰」を頂いたことを伝えたところ、非常に喜んでいました。

並木の整備は今後しばらく続くと思いますが、皆様の努力で立派な並木道となり市民の憩いの場になることを願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

なんて素敵なお活動であろうか

吉川昭雄

ノジコの会の道心坂での活動、十周年おめでとうございます。私は中途会員ですので、会の名前の由来や最初の活動内容がわかりません。でも今、主に活動しているオオヤマザクラ並木の再生と、合間に実施されます大人の遊びが気に入っています。

関根会長の夢が私達会員の夢となり、広大な自然を相手に活動して、桜の苗木を植え、下草刈り、ツル伐り等手入れをして、展望台を作り、星を見ながらたまには酒を飲み、泊まり、最後にはキレイな花を咲かせる。そして市民の皆さまから足を運んでもらい、桜の花を楽しんでもらう。なんてステキな活動ではないですか！

関根会長がいつも言っておられます、日本三大オオヤマザクラの並木に仕上げたいです。

日本の方々から見に来てもらえるような！

花見の時期には茶屋を開いて、ダンゴでと甘酒を売っている自分を夢見ているところです。

全地権者の同意を得て

関根依智朗

「道心坂にきれいな桜の咲く樹木があるが、誰か守ってくれないか」という月岡集落の五十嵐喜一氏からノジコの会に相談があった。地権者の承認を得なければならぬ。そこで植樹をやってこられた川俣芳衛氏の助言を受けた。下大浦地区には小浦方功氏に相談を持ちかけ、地権者十四名を集めてくれた。

地権者には、道心坂の桜並木は全国に三ヶ所しかないものであり、名勝地となりうる並木であることを説明した。具体的には、①杉、桐などの木は伐らない。②伐る木は法面の上・下約一メートルを伐り払いたい。③伐った木は玉伐り、地権者に渡す。④いらなければノジコの会で処理させてもらう。⑤後片付けはきちっと整理する。ということ全員一致で了承していただいたのである。

月岡地区の地権者は三十五名であり、一堂に集まっていたことは無理であると考え、地権者の有力者である大桃靖六氏らに川俣芳衛氏から話をしてもらい協力してもらった。そして地権者全員に、桜並木の存在意義と伐る前後の処理を説明書きにしたものを一軒一軒に配り、説明して廻って了承を得て行った。

ノジコの会は当初は十四名で発足し、須頃郷第二・三号で、ヤマボウシやブナの苗木を寄贈して植えた。その後桜並木に重点を変えてから年々会員は増えた。最初はチェーンソーや草刈機を使える人も少なかったが、徐々に腕が上達していった。そこに機械使用に慣れた参加者も加わり能率が上がった。参加者は一人、二人と増えて、今では二十八名に達した。婦人会員の協力もあったし、会員の奥さんの協力もあった。

毎年市民参加による植樹を行った。春と秋には支障木の伐採、夏の蒸し暑い頃には機械を使った草刈りを行った。こうして植えられた苗木は、新植七六〇本、補植、改植一六五本にのぼった。

これからの苗木は、五年後・十年後には、こうした努力によって立派に育てられ、オオヤマザクラは絢爛豪華の花を咲かせてくれ、三条市の誇りとなり市民の憩いの場となってくれるであろう。

桜並木が教えてくれること

高木きえ子

関根さんの講義を受け、桜の苗木を植えた。あれから十年の月日が経過した。大きく育った桜並木を眺めて、改めて自然の力に感動した。人は環境によって生きてきた。それによって文化をつくってきた。環境が与えてくれる果実や魚を食べ、木や石で家を建てた。

その一方では、人は環境に従うばかりではなく、これに働きかけて生きてきた。山を焼いて畑を、野生の動物をとらえて牧畜を行なった。そして人は科学技術の力によって大きく環境を改造して、ダムを造り、土を掘って運河を造り、セメントで固めた都市や機械でものを作り出す工場群を築きあげた。このように人は自然を改造することによって、恐ろしい自然災害からのがれるとか、考えられないほどの高い生産をあげるとか、自然にはあり得ない多くの便利な工業製品を作り、豊かな生活を作った。環境自身を人工的なものに変えて快適な生活ができるようになった。

しかしこれによってさまざまな問題が発生した。いわゆる環境汚染、破壊である。もともと環境には自浄能力や再生能力があり、汚れた水や空気は自然に清められ、焼かれた林にもいずれ緑はよみがえる。また自然と生物との間には一定の生態系があつて、これがうまく循環し、人間もその中で生きてきたのである。ところが環境の改造が大規模に進められると、この自然のバランスがくずれ、自浄能力を超えた汚染や生態系をくずす破壊が進行し、それが今人類の生存にかかわる問題にまでなつてきている。東日本大震災を目の当たりにし、原発の安全神話の崩壊を体験した私たちは、これ以上の環境汚染、破壊は、人類を滅亡にさえ導きかねないことを反省して、環境の保全とともに人類が生き延びる方法を真剣に考えなければならぬことを桜並木は教えてくれる。

道心坂の桜

梨本清一

道心坂は、市民の身近な所にありながら、あまり知られていないお花見の穴場である。道心坂は、整備の行き届いた公園ではない。かといって、荒れるにまかせた山道でもない。適度に人の手の入った里山の散歩道といったところか。近くに粟ヶ岳、守門岳を眺め、小鳥たちのさえずりに耳を傾け、山桜の楚々とした風情を愛でながらの散策は、なんとも至福のひとつである。

この道心坂には、私達だけの格別の思い入れがあることにはある。

それは、何年前かに、関根依智朗氏の呼び掛けで、当時かなり荒れ放題だった道心坂の桜の植樹に、何回か参加させて頂いたことだ。訪れる度毎に、我が子の成長に目を細め、驚き、喜び、そして将来の姿に夢を馳せるのである。

野路子の会十周年記念に寄せて

梨本保夫

オオヤマザクラ並木の保全再生十周年と環境大臣表彰、会員の一人として心より嬉しく思います。ノジコの会にお会いして、早三年になろうとしています。オオヤマザクラという全国でもめずらしい品種の桜が道心坂に植えられています。

この桜を守る会員として働いています。支障木の伐採、雑草の下刈り等の仕事があり、時には辛いこともあります。伐採木は、しいたけ、なめこの原木となり、またストーブの薪となり、楽しみやら私達の生活を助けてくれます。

人間と自然の結び付きの大切さを強く感じさせられます。

健康に気をつけ、桜の成長を見守っていききたいと思えます。

うちの裏山

初めて道心坂を歩いたのは昭和五十年頃だったろうか。地主さんが道を付けられて間もなくだったと思う。その頃私はまだ現役で時々気分転換に利用させて貰った。養護学校側から歩き出し頂上で軽く一休み。そのまま埋立地の方へ下り、凡そ三十分位の行程だった。

春先の残雪の頃はカンジキを履いて歩き、雪が融ける頃には露のトウを頂いた。続いてカタクリが見事に満開。丁子桜が可憐な花を咲かせていた。バブルで別荘ブームに乗り、頂上付近に山小屋が三つ程建てられた。その後三十余年、木々の成長、伐採、土砂崩れなどで山容も変わり、山小屋も朽ち果て射撃場も無くなる。埋立地も数倍嵩上げされ立派な中継アンテナも立った。

しかし地元篤志家による植樹でオオヤマザクラ並木がすっかり根付き、その後の「ノジコの会」による補植、整備により入口に看板が立てられるほどの観光ルートに変わった。

月岡での活動十周年を期に、改めてサクラ並木の保育に「うちの裏山」と思って今後協力してまいります。

オオヤマザクラの植栽作業に参加して思うこと

私は、自宅の周りに木を植えたり、なるべく草も刈らずに、フキやミヨウガ等を植え、ヨモギやドクダミに囲まれて生活をしています。縁あって、オオヤマザクラの苗木の植栽作業には何度か参加をさせていただきました。

並木道の周辺は、自然観察会や探鳥会の会場としても使われている、自然豊かな場所だと思っています。



平松利朗

深沢学

梶の森運動公園にも近く、公園の駐車場に車を止めてトリムの森と合わせて散策をするとなれば、特に桜の時期の名所となる場所だと確信しています。

また、将来、公園として整備されるであろう道心坂の最終処分場跡地とともに、市民の憩いの場所とならんことを願ってやみません。



オオヤマザクラ並木がいつまでも咲き続けるように

細川和子

自然がいつぱいの道心坂にオオヤマザクラが咲いているのは知っていましたが、こんなにたくさん桜の木が植えてあるのを地元三条新聞の記事で知り、保全のために活動しているノジコの会のことなども知りました。

ちよūdとその頃、私自身も水害の被害などを受け、里山の保全の大切さなどを考えさせられる時期と重なり、少しでもお手伝いできれば…と思いました。

カタクリの群生地、山野草が咲き、珍しい野鳥のさえずりも聞こえてきます。こんなすばらしい場所も、ほったらかしではすぐに荒廃してしまいます。やはり手入れを必要としています。

男性会員の方がチェーンソーで切られた支障木の枝などの処理、オオヤマザクラにからみつく植物のツルを切ったりと、そのようなお手伝いをさせて頂いてました。

手入れをされて見違えるようになった山々の風景……。私の心の中にいつまでも残っていくことでしょうか。

残念ながら今は、年老いた両親の介護でノジコの会の活動は中止せざるを得なくなりましたが、これからもこの美しい里山の自然を皆さんにも味わって頂き、そして見事なおオヤマザクラの並木がいつまでも咲き続けるように、市民の一人として、願ってやみません。

市政の姿勢

松谷晃吉

皆で行動すれば大抵のことは成し得る。道心坂でのオオヤマザクラの植樹もそうやって予定に則って終了した。皆さんご苦労様でした。しかし、桜の開花時に、また本来市民の自然に触れ合う場所であったこの道心坂に、どれだけの一般市民が訪れるだろう。

道はデコボコ、草はぼうぼう、とても子ども達を連れてお弁当を持って道心坂に行こうと思う人は極めて少ないだろう。三条の行政はいつもこうだ。小屋もいくつかあったはず。しかしいずれにしても荒れ放題。大崎山もしかり。薄暗く、遊具は壊れ、自殺の名所との異名さえある。槻の森もいずれはこうなる様相をすでに見せている。休日、子ども連れの市民は挙って燕や加茂等市外の公園に仕方なく行っている。行政は市民の憩う場所を提供する義務があるんじゃないだろうか。さんじよっぱらいは言葉だけにしてもらいたい。作る物を作って行政がしっかり管理するのは当然のこと。ボランティアでは限度があると思うが皆さんいかが？

オオヤマザクラとの出会い

三ツ井勝雄

近くに住んでいながら、道心坂のオオヤマザクラ並木を見たことがありませんでした。八年程前、市の環境シンポジウム記念講演「いま、地球のためにできること」を拝聴した後、会場で勧められるままに環境パートナーシップ会議の会員募集に応じ、私に何が出るか解りませんでした。が、定年退職した年で、近くに参加しやすいだろうと、「道心坂を中心とする山と川に親しむ部会」へ入会し、桜の植樹と雑木伐採作業のお手伝い等々の行事や活動と、トリムの森周辺の遊歩道の作設と整備に関わり、その後、環P会議解散後は「トリムの森周辺の里山に親しむ会」の地元会員の一人として、遊歩道の草刈りや案内板の補修管理等で、里山歩きにより元気でられるのも関根さんと会員の皆様のおかげと感謝申し上げます。ただ残念なことに、雪害によるオオヤマザクラの損傷がありますが、春の開花、美しさは見事。ぜひ三条の名所になってほしいものです。

桜の木も世代交代

皆川武巳

久しぶりに桜を見に山に行って来ましたが
すっかり桜の木までが世代交代して
うっそうとしていた桜のトンネルがいつの間に消えて
若桜が花を咲かせて、前ほどの美しさはありませんでしたが
たまげてしまい
自分の身に置き換えて一抹の寂しさを感じましたが…。
これからどんな桜並木になるか、楽しみに毎年見守りに来たいもんだと改めて思い、帰って来ました。

道心坂活動十周年に寄せて

宗村里士

ノジコの会の、月岡道心坂でのオオヤマザクラの植樹・保全再生活動が十年になったとのこと。振り返ればあつという間の月日が流れたと感じています。

ノジコの会の設立当初からの会員の一人として、少しでも記録にとどめておきたいと思います。

この会は、旧三条市が平成十二年度（平成十三年三月）に策定した、まちづくりの基本計画である「第四次振興整備計画（まちづくり総合計画）」の策定にあたって、市が「市民参加のまちづくり」「市民と行政の協同」として、市民の意見を聞きながら計画を作り上げていこうとして立ち上げた「市民ワーク・Work・さんじょう」、その中の「都市環境部会」の中の有志が立ち上げたものです。

この文を書くに当たって、当時の資料で確認しようと、古い手帖、整理されていない山のような書類箱や写真アルバムなどを探し探し、ようやく見つけ出しました。

平成十二年十一月十日（金）、前記部会の親睦慰労会を兼ねて「まるい」で懇親会を開いたこと。そしてそこで、市民の参加が計画作りで終わるのではなく、継続してまちづくり活動を進めること、会の名称や、高橋一夫前三条市長を招いて十一月二十三日に記念植樹会を行うと決めたこと。

翌平成十三年一月に発行された「ノジコ（野路子）の会ニュース」第一号によれば、設立当時の会員の数は十四人。市職員もいれば、民間のいろいろな職種で活躍している人、退職しても緑豊かな潤いのあるまちづくり一筋に情熱を注ぐ人、いろいろな人がいましたね（当時、市職員は五人もいたのには今では私一人になってしまいました）。そしてその後多くの人の出入りがありました。整理されていないアルバム、会の活動風景の写真を見て、もう顔や名前すら忘れてしまった人もいます。

ノジコの会の初仕事である最初の植樹が、国道八号線沿いの新潟トヨタ三条店と信濃川土手の間にある須頃三号公園。ここでの植樹が、今行なっている道心坂オオヤマザクラ植樹・保全活動の原点といえるでしょう。

今年（平成二十四年）の春のある土曜日、小雨が降りしきる中、この文を書くために会の活動原点の地である三号公園を訪れました。関根会長が丹精込めて育て、提供していただいたブナ、二十センチくらいものから七十〜八十センチくらいの苗木が、大きいもので二〜三メートルになっていました。また、三メートルくらいあった三本の株立ブナは、五メートルくらいに立派に成長していて、こ

れまでの歲月、厳しい気候の中で、しっかりと大地に根付いていることに安心をしました。そして、私たちの活動が決して意味のないものではない、次の世代につながる活動であることも確信し、静かな喜びに満たされました。

私たちノジコの会の活動のステージは、その後、道坂心に移ってきていますが、他の市民の活動も盛んになってきています。NPO法人化したネットワークみどり緑が須頃二号公園の整備の活動を、また当初ノジコの会は、三条の街を緑に、と活動しはじめましたが、今では、ポケットパーク整備実行委員会がJR弥彦線高架下緑道のポケットパークの整備を始めています。ノジコの会が種を撒きはじめ、それに少しづつ関わる多くの人たちがそれぞれの力で緑豊かなまちを創っていきこうと活動し始めています。そういった意味で、三条市のまちづくりの先鞭を果たしてきたノジコの会の存在に、そしてこれまで私たちが行なってきた活動に、少しばかりの誇りと嬉しさを感じています。

継続は力です。ここまでこの会を引っ張ってくださった関根会長さん、そして多くの方々に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございます。道心坂での活動を地道に続けていくことで、後世に残るステキなおオヤマザクラ並木を目指して、また一歩一歩みんなで歩み続けましょう。道心坂の活動十周年、本当におめでとうございました。

記念誌発刊に寄せて

弥久保誠吾

今から数年前の早春のある日、ノジコの会会長の関根依智朗氏が小生を訪ねてきた。

何でも、道心坂を整備しおオヤマザクラを植えるのだという。

おオヤマザクラは紅が濃く、見事な桜で、道心坂に咲くようになれば「おオヤマザクラ並木としては日本で三か所しかない名勝地の一つになる。しかもノジコの飛来地でもある。」と笑顔の中にも、おオヤマザクラやノジコのことを熱く語っていた。

ついては、来る土曜日の半日ほど手伝っていただけませんかのこと。

小生も野山を散策することは好きなので二つ返事でOKした。

当日は、気迫十分頭にねじり鉢巻きや、いでたちからしても、その道のプロとおぼしき人も多数いたりして、小生など恥ずかしいくらいであった。それでも、素人なりに雑木の枝や複雑に絡みあった蔓などを切り払った。

圧巻だったのは、プロとおぼしき人が切り倒したかなりの大木を十数人で、ワッセワッセと声高らかに藪から歩道に引きずりあげたときは、拍手でお互いを称えあった。

こうした十年にも及ぶ、関係者のたゆまぬ努力の結果が今回の植樹完了に至ったものと思います。関係者の皆様に心から敬意を表します。

そしていつか、道心坂がオオヤマザクラの名勝地として、三条市民は勿論のこと、市外の人達からも末永く愛される日がくることを願ってやみません。

ノジコの会のこと

ノジコの会に入るきっかけは、八年前、薪ストーブ用の薪が欲しくて、山の座学の講師をしていた関根さんに、木を採れるところはないかと聞いたたら、道心坂で採れるということを言われました。その時、チェーンソーを持っているかと訊かれ、持っていないというと、チェーンソーがあるといいんだがなあと言われました。チェーンソーに触ったこともないし、どのような物を買ったらいいのか分からないので、作業午前中、他の人の使っているのを見て昼休みにホームセンターで買ってきて、午後から、生まれて初めてチェーンソーを使って木を切りました。

それから何回か行っているうちに、ノジコの会に入らないかと言われ入会しました。

オオヤマザクラ、カタクリの花畑の支障木を切り整備していけば、一周四キロのすばらしいハイキングコースになると思います。



山野井哲

ノジコの会に入って良かったこと

山本恵

ノジコの会の道心坂での活動十周年、おめでとうございます。植えたオオヤマザクラの直径が十センチ、春に花を咲かせる程度に成長したところでしょうか。

三年前にノジコの会に入り、冬期間を除く月一回のオオヤマザクラ並木管理のための、支障木の伐採、草刈り等で、午前中の四時間程度を日常と離れた山の中で汗を流すことは、私にとって日常を忘れ、日常の疲れを癒す時間となっています。その結果、春は桜吹雪の中に身を置く至福の時に会い、夏は山に満ちる緑の息吹を感じ、秋は山の錦の絵模様を見る。

このように日常と違った時間を持つのが、ノジコの会に入って最も良かったことです。なお、悪かったことは横においておきますが。

植樹したオオヤマザクラが年々大きくなり、満開の花を咲かす大木に成長するのを楽しみに、ノジコの会の活動を続けるつもりです。

一般市民へ自然の大切さを

横山正美

ノジコの会の道心坂での活動十周年おめでとうございます。

ここまで活動された会員の皆様に敬意を申し上げます。特に関根会長におかれましては、公私多忙な中、本会を取りまとめていただきありがとうございます。

私は、道心坂の地元下大浦に居住しております。



皆様方から、この道心坂にオオヤマザクラを植樹していただき、一般市民へ自然の大切を啓蒙できたと思います。今後の自然の大切さを守る活動にご尽力いただければ幸いです。

散るを惜しむ花の風情

和田武

あれからもう十年になる。背丈くらいのおオヤマザクラの苗木を植えて、掛矢で支柱を打った。道心坂の曲がりくねった坂道。春になると家のすぐ裏、五十嵐川堤防から淡いピンクのサクラが、「ここに居るよ」と手をあげているようだ。

オオヤマザクラは日本に自生する三種のサクラの一種であるという。他の二種は、西日本のヤマザクラ、東日本のヒガンザクラだそう。サクラと云えばソメイヨシノは高名だが、自生種ではないとのことだ。

オオヤマザクラの咲き方と散り方は「のどか」だと言う人がある。赤味を帯びた幼葉と同時に淡いピンクの花をひらく。散りを急がない「花の命」。「散るを惜しむ」花の風情がある。清楚であるが凜とした華やかさ。道心坂の山道にオオヤマザクラが成長し、市民に春のやすらぎを与えてくれる楽しみがある。

ノジコの会の歩み

資
料
編

活動年月日

活動内容

平成一二年一〇月一〇日
(二〇〇〇)
第四次三条市振興整備計画策定時の都市環境部会で、同部会終了後も有志で引き続きまちづくり活動を行うことと決定。

十一月一〇日
第一回結成総会(会員十四名 於…割烹まるい)
ノジコの会、会則、申し合わせ事項確認 目的…緑豊かな街をつくろう
ノジコの会結成記念植樹 須頃三号公園(ブナ苗木三十本ほか)

平成一三年 三月 三日
(二〇〇一)
センス・オブ・ワンダー実行委員会出席(以後、計新潟SOW実行委員会三回参加、三条SOW実行委員会十二回参加)

三月 九日
SOW実行委員会の取組(共催)について会長、事務局長協議 次回総会においてノジコの会参加決定
三月一八日
第二回定期総会

四月 八日
親睦伐採・薪割り会(保内地区)

四月二四日
今後の取組の協議(良寛さま祭り参加ほか)

五月二六日
センス・オブ・ワンダーIN大崎山共催参加(上遠恵子講演会ほか)

〓二七日

六月一八日
打ち合わせ会(医)川瀬神経内科クリニック(櫛の森)

六月二八日
須頃郷第三号公園 ヤマボウシ他計二種一〇本植樹

八月三一日
夏忘れ会(グリーンズポーツセンター)

九月一五日
良寛さまとあそび祭り参加

一〇月二三日
下大浦地区地権者(十四名)よりオオヤマザクラ並木の保全管理に了承を得る。

十一月一日
打ち合わせ会(櫛の森)

十一月二五日
映画「センス・オブ・ワンダー」自主上映会共催参加(中央公民館)

十二月 七日
第三回定期総会(オオヤマザクラ並木の保全管理の決定)

二月 九日 道心坂支障木の伐採試行作業（以下、道心坂での場合は地名省略）
二月 一日 月岡地内の地権者に道心坂のオオヤマザクラ並木保全管理について話を始める。

平成一四年 二月 一日 新年会（蒼竜庵）

(二〇〇二) 三月 一〇日 支障木の伐採（この年から林道全線にわたって再生保全活動を開始）

四月 一四日 観桜会

七月 一日 打ち合わせ会（檜の森）

七月 二日 民有林（下田村大平）のスギ造林地下草刈り

九月 三日 打ち合わせ会（檜の森）

九月 五日 良寛さまとあそぼ祭り参加

九月 二二日 シェアリングアース協会会長 藤本和典先生の講演会

九月 二三日 支障木の伐採

九月 二八日 自然学習会 下条ダムで種子採取

一〇月 一九日 民有林（下田村大平）の植林、下草刈り

十一月 八日 第四回定期総会

十一月 二六日 伐採支障木調査

十二月 八日 支障木の伐採

平成一五年 二月 一日 打ち合わせ会（檜の森）

(二〇〇三) 二月 一〇日 新年会（檜の森）

三月 九日 支障木の伐採

三月 二一日 (医) 川瀬神経内科クリニックかわせみ棟の生垣植栽に協力

五月 二五日 籠ノ登山親睦登山

八月三十一日 第一回巨樹・巨木の調査（旧三条市） 夏忘れ（檜の森）

九月十五日 良寛さまとあそぼ祭り参加

一〇月二二日 オオヤマザクラ苗木植樹（二十本）、支障木の伐採

十一月二六日 須頃二号公園の第一回記念植樹に参加

十一月九日 第二回巨樹・巨木の調査（旧三条市）

十一月五日 第二回巨樹・巨木調査分写真撮影

十一月八日 第二回巨樹・巨木調査分写真撮影

十一月九日 第三回巨樹・巨木の調査（旧三条市）

十一月二四日 支障木の伐採、第五回定期総会（割烹まるい）

十二月二日 忘年会（割烹まるい）

十二月三日 第三回巨樹・巨木調査分写真撮影

平成一六年 三月二一日

(二〇〇四) 四月 三日 支障木の伐採
第四回巨樹・巨木の調査（旧三条市）

四月 八日 第五回巨樹・巨木の確認調査

四月一九日 打ち合わせ会（檜の森）

四月二九日 三条市制七十周年記念植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木の植樹（七十本）、終了後観桜会

六月二三日 打ち合わせ会（檜の森）

九月二〇日 良寛さまとあそぼ祭り参加

一〇月二一日 支障木の伐採

一〇月二三日 下草刈りとオオヤマザクラ苗木の植樹（五十本）

十一月二四日 第六回定期総会

十二月一九日 オオヤマザクラ苗木の支柱立て

平成一七年 三月二七日

支障木の伐採

(二〇〇五)

四月二九日

三市町村合併記念植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木植樹(百本)

終了後観桜会

五月三日

オオヤマザクラ苗木への肥料撒布

五月八日

自然観察会(道心坂くトリムの森周遊)

七月九日

下草刈り

九月四日

三条市旧街並み保存の調査

九月一八日

下草刈り

九月一九日

良寛さまとあそぼ祭り参加

一二月二日

第七回定期総会

一二月四日

オオヤマザクラ苗木の支柱立て

平成一八年 三月七日

打ち合わせ会(医) 川瀬神経内科クリニックかわせみ棟

(二〇〇六)

三月二六日

支障木の伐採

四月二三日

植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラの苗木植樹(五十本)

六月二五日

下草刈り

七月一七日

民有林(栄町北潟)の杉林間伐

八月一三日

下草刈り

八月二七日

下草刈り

八月二八日

第十一回新潟県環境賞を受賞

九月一八日

良寛さまとあそぼ祭り参加

九月二三日

黒斑山親睦登山

一〇月二九日

オオヤマザクラ苗木の植樹(二十本)

十一月一九日

道心坂桜並木にベンチ六基設置

第八回定期総会

平成一九年 三月二五日

支障木の伐採

(二〇〇七)

四月 八日

支障木の伐採

四月一五日

植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木植樹(百本)

五月一三日

支障木の伐採

六月一七日

「三条市における巨樹・巨木の調査」作成製本

六月二三日

下草刈り

七月 二日

打ち合わせ会

八月 四日

下草刈り

九月 三日

打ち合わせ会

九月一七日

良寛さまとあそぼ祭り参加

一〇月 八日

チェーンソー使用講習会(講師 三共機工(株))、支障木の伐採

一〇月二一日

民有林(栄町北潟)の杉林間伐

十一月 三日

野鳥感察会 カタクリ群生地の下草刈り、案内看板除幕式

十一月二六日

第九回定期総会(海老勢)

平成二〇年 二月一九日

第十回臨時総会 会計年度の変更(会計年度の十一月～十月を、四月～三月に変更)、計画

(二〇〇八)

三月二三日

カタクリ群生地の看板設置、下草刈り

三月三〇日

植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木植樹(百本) 三五名参加

四月 六日

支障木伐採(八名)

四月二〇日

民有林(栄町北潟)の杉林間伐(六名)

四月二九日

支障木の伐採(八名)

五月一八日

支障木の伐採(二名)

六月 八日

下草刈り(七名)

七月二一日 霧ヶ峰（車山）親睦登山（五名）
七月二九日 下草刈り（シルバー人材センターに委託）

～三一日

九月 一日 夏忘れ

九月一五日 良寛さまとあそび祭り参加

一〇月一九日 植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木植栽（七十本 ※春の植樹祭の百本のうち七十本が枯死したため改植）

一月 三日 支障木の伐採

一月 八日 支障木の伐採

一月二三日 野鳥感察会（月岡林道）

一月二八日 第十一回定期総会・忘年会（美食工房）

二月 三日 支障木の伐採（五名）

二月二四日 支障木の伐採（四名）

平成二二年 三月 二日

（二〇〇九） 三月 八日

三月一五日 支障木の伐採

四月 五日 カタクリ群生地 of 整理

四月 六日 大径木伐採（斎藤林業に委託）

～七日

四月二二日 植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ植樹（百五十本）三十名参加、終了後祝賀会

四月二五日 支障木の伐採（三名）

四月二九日 支障木の伐採（五名）

五月二四日 自然環境調査（道心坂一周 五名）第十二回定期総会

五月三〇日 支障木の伐採（二名）
 六月一三日 支障木の伐採（三名）
 六月一八日 下草刈り（シルバー人材センターに委託）
 七月二日 下草刈り
 八月三〇日 秋期計画打ち合わせ
 九月一三日 道心坂の粗大ゴミ（ジープ）の解体整理搬出（六名）
 九月一九日 槻の森斎苑 市民の森植樹会参加
 九月二一日 良寛さまとあそぼ祭り参加
 一〇月一一日 支障木の伐採
 十一月八日 道心坂山頂の展望台作設（九名）
 十一月二五日 道心坂山頂の展望台作設（七名）
 十一月二一日 野鳥感察会（月岡林道周辺一二五名）
 十一月二九日 道心坂山頂の展望台作設

平成二二年 三月一四日 道心坂展望台作設並びに支障木の伐採（地権者の了承を得る）
 (二〇一〇) 三月二八日 道心坂展望台作設並びに支障木の伐採
 四月 四日 支障木の伐採、終了後、エゾシカの試食会
 四月 七日 支障木の伐採木選定、業者と調査
 四月一〇日 野鳥感察会（道心坂） 藤本和典先生
 四月一一日 植樹祭 市民参加によるオオヤマザクラ苗木を植樹（百本）
 四月二一日 大径木伐採（斎藤林業に委託）
 五月 三日 支障木の伐採 山頂下広場バーベキューキャンプ
 五月 四日 支障木の伐採
 五月二三日 道心坂山頂に展望台作設

六月 四日 第十三回定期総会

六月 三日 支障木の伐採

七月 九日 下草刈り（斎藤林業に委託）

七月 一日 下草刈り、つる切り

七月 二日 下草刈り（シルバー人材センターに委託）

八月 一日 下草刈り

九月 二〇日 良寛さまとあそぼ祭り参加

一〇月 一日 オオヤマザクラ植栽箇所の地拵え

一〇月 三十一日 オオヤマザクラ苗木の植栽（補植四十本）

十一月 三日 汚泥再生処理センター 市民の森（パート2）植樹会参加

十一月 二〇日 野鳥感察会 藤本和典先生（道心坂）、オオヤマザクラ苗木の冬囲い作業

平成二十三年 二月 二七日

(二〇二二) 三月 二七日

四月 一〇日

四月 一七日

四月 三〇日

五月 一日

五月 三日

五月 七日

五月 八日

五月 十五日

六月 二日

七月 一〇日

新年会 春期作業打ち合わせ

支障木の伐採

支障木の伐採

支障木の伐採

東日本大震災避難者慰安観桜会

支障木の伐採

支障木の伐採

山頂下広場バーベキューキャンプ

支障木の伐採 第十四回定期総会

支障木の伐採

下草刈り、つる切り

下草刈り

七月二五日 下草刈り(斎藤林業に委託)

～二六日

八月二一日 秋期作業計画打ち合わせ

九月一一日 カタクリ群生地の下草刈り

九月一九日 良寛さまとあそび祭り参加

一〇月九日 オオヤマザクラ苗木補植箇所の地拵え

一〇月二一日 大径木伐採(斎藤林業に委託)

一〇月二三日 オオヤマザクラ苗木の植栽(補植三十五本)

一一月一三日 支障木の伐採

一一月二三日 支障木の伐採

一一月二五日 来春の作業内容打ち合わせ・忘年会(海茶屋)

一一月二七日 支障木の伐採

一二月二五日 山神祭 支障木の伐採

平成二四年 四月八日 山神祭 支障木の伐採 懇親会(海茶屋)

(二〇一二)

四月二二日 支障木の伐採

四月二八日 支障木の伐採

五月一三日 支障木の伐採

六月八日 第十五回定期総会(海老勢)

六月一〇日 下草刈り

六月二五日 会長・事務局長、環境大臣賞受賞祝賀会の下打ち合わせ

六月二九日 平成二十四年度地域環境保全功労者表彰環境大臣賞受賞(東京都千代田区・グランドアーク半蔵門)

六月三〇日 ホタル鑑賞会(下保内)

七月八日 下草刈り

七月一七日	環境大臣賞受賞祝賀会運営方法打ち合わせ
七月一八日	下草刈り（斎藤林業に委託）
七月二二日	カタクリ群生地 下草刈り、支障木伐採（新潟日報社現地取材あり）
七月二七日	地域環境保全功労者表彰環境大臣賞受賞祝賀会（割烹まるい）
九月一日	夏忘れ並びに秋期作業計画打ち合わせ（会長宅）
九月九日	カタクリ群生地（クリ林）の整理（下刈り）
九月一七日	良寛さまとあそぼ祭り参加
九月三〇日	カタクリ群生地（クリ林）の整理（下刈り）
一〇月一四日	カタクリ群生地（クリ林）の整理（下刈り）
一〇月二七日	オオヤマザクラ植栽（二十本補植）
十一月一日	山神祭 道心坂山頂整理 ブナ苗木六本移植
十二月一四日	忘年会と秋期作業報告（海老勢）

以上、ノジコの会として、平成二四年末までに、新植七六〇本、補改植一六五本（平成二〇年改植七〇本を含む）計九二五本を植樹。
現在、川俣芳衛氏の植樹木を含め、周囲四キロメートルに、一三〇〇本余が植えられている。

**環境大臣賞「地域環境保全功労者表彰」を
県内の団体が受賞します**

地域環境保全及び地域環境美化に関し特に顕著な功績があった者（団体を含む。）に対して、その功績をたたえるため、毎年度環境大臣による表彰が行われています。本年度は下記のとおり、県内の団体が環境大臣賞を受賞します。

記

- 1 日 時 平成24年6月29日（金）
- 2 場 所 グランドアーク半蔵門（東京都千代田区隼町1-1）
- 3 県内の受賞者 環境大臣賞「地域環境保全功労者表彰」
ノジコの会（三条市 会長：関根 依知朗）

【功績】

三条市道心坂のオオヤマザクラ並木の保存のために長年に渡り、支障木の伐採、苗木の植樹、下草刈り等の作業を行い、あわせて1,000本以上の桜の管理を行っている。

同時に、並木周辺に広がるカタクリ群生地保全、市内の巨樹巨木の調査を実施し、里山の保全を行っている。また、市民向けに観桜会、野鳥観察会を開催し、森林の役割や里山保全の大切さを啓発し続けており、さらに、市や他団体が実施する植樹等へ会員を動員し、サポートするなど、環境保全団体として団体の枠を超えた横断的な活動を行っている。

県民生活・環境部環境企画課
企画調整係 担当：梅津
電話：025-280-5149（直通）
2699（内線）

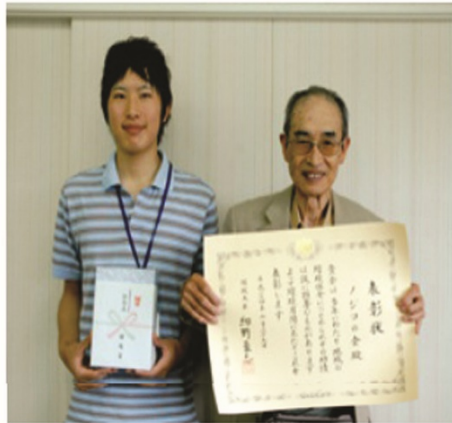
団体の枠を超えて横断的に継続してきたこと評価

ノジコの会、環境省「地域環境保全功労者表彰」で環境大臣賞

2012年07月03日日本紙掲載

新潟県三条市の環境保全活動に取り組んでいる団体、ノジコの会(関根依智朗会長)が、6月29日、環境省が毎年開催している、国内における地域環境保全および地域環境美化で功績のあった個人や団体を表彰する「地域環境保全功労者表彰」で、環境大臣賞を受賞した。

平成12年に設立、平成14年7月にボランティア活動を開始して10周年を迎える同会は、荒廃の一途をたどっていた三条市道心坂の貴重なオオヤマザクラ並木の保存のため、周辺整備や苗木の植栽など長年にわたり取り組み、1000本以上の桜の管理を行ってきたほか、並木周辺のカタクリ群生地の保全、市内の巨木調査の実施など里山保全に注力。また市民に向けた観桜会や野鳥観察会の実施など、



啓発活動に精力的に取り組むなど、市民と里山を結びつける活動を団体の枠を超えて横断的に継続してきたことが、今回の受賞につながった。

なお、今年度の県内での受賞は同会のみ。

受賞式は、東京都千代田区隼町、グランドアーク半蔵門で開かれ、細野豪志環境大臣らが出席し、18人・27団体が表彰された。同会からは関根会長と事務局担当の有馬崇弘さんが出席した。

同会では、今月下旬に受賞と今回の活動開始10周年記念を祝う祝賀会を開く予定で、関根会長は「さもありなん。全国的に表彰されたことは本当に良かった」と喜びを表し、現在の三条市の自然環境について、「市街地については、まだ緑が少ない。三条ほど少ないところは全国的にも珍しいのではないかと。樹木の良さをみんなに気付いてもらえれば、団体としての活動には限界がある。ぜひ、市民にも関心を持って取り組んでもらいたい」と語り、今回の受賞がそのきっかけになれば、と話していた。

(細山)



HOME

観桜者の皆さんへ

このオオヤマザクラ並木は篤志家が地権者のご理解とご協力を得て、約四〇年前（一九七〇年頃）私財を投じて約四キロメートルの林道を開設し、一千本の苗木を植栽した並木です。

その後、雪害等により約四〇パーセントの苗木が枯死したためノジコの会が地元地権者の要望をうけて、市民と協力して支障木の伐採等を行ない、苗木を植栽し保全に努めています。

オオヤマザクラ（別名エゾヤマザクラ、ベニヤマザクラ）は北海道・東北地方に多く自生し下田郷でも稀れに自生木が見られる樹木です。
開花はソメイヨシノより一週間前後遅く、花色は鮮やかな紅紫色で満開時は圧巻です。

このオオヤマザクラ並木は全国に三ヶ所あり、そのひとつが三条市に存在しており、希少価値のある並木です。

観桜者の皆さんには並木の保全にご協力いただき、次のことを必ず守って下さい。

記

- 1、タバコ、たき火は厳禁
- 2、ゴミ、空き缶は必ず持ち帰ること
- 3、樹木山野草の採取、採掘は行わないこと
- 4、野生動物・昆虫等の保護に努めること
- 5、自動車の乗り入れはつしむこと

以上

オオヤマザクラ並木案内図



ノジコの会
地権者

道心坂最終処分場脇の林道入口に設置してある「オオヤマザクラ並木案内図」

あとがき

高度経済成長期であったバブル経済の時代から一転、失われた二十年といわれる低成長期に入り、ようやく私たちも浮かれた生活から身の回りの自然や環境といった、素朴でも身近で大切なものに気付くようになってきて、そういったものに関心が向き始めた。その中の一つとして、日本人が古くから接してきた里山がいろいろな形で取り上げられるようになって、その美しさや良さが少しずつ人々に認められるようになってきた。

私たち三条の身近な自然である里山といえば道心坂や大崎山がある。中でも四季折々の自然が感じられる道心坂を愛する三条市民は多い。

今回、ノジコの会の道心坂での活動が十周年を迎えたことの記念として、会員を中心に、森林の会や地元自治会、植樹参加者など、日ごろから道心坂に接しておられる方からも寄稿していただいた。今回多忙で寄稿できなかった方々でも、道心坂に想いを寄せる方は多い。こういった道心坂に関心を寄せていただいている方々以外にも、道心坂の自然に触れ、その良さを感じてくださる方を少しでも増やしていければとノジコの会は活動してきた。

今回の記念誌発行を機に、さらに多くの皆さんから協力をいただき、道心坂のオオヤマザクラ保全再生活動を続けていかれることを願っている。そして、今回寄稿いただいた皆さんのすべての共通の想い、オオヤマザクラ並木がいつか立派になり、春の花見のころ、夏の緑陰に、秋の紅葉の時期、そして野山が白い雪で眠る時期にも、市民の皆さんから足を運んでいただけることを夢見て、あとかきとしたい。

平成二十五年三月

宗村里士